

# 一般 質問

令和4年 9月定例会

## 大災害被災時への 万全な備えを

高橋 英次 議員



**Q 仮設住宅建設予定地は** 大災害被災時における仮設住宅建設予定地の選定など、「飯南町地域防災計画」における該当項目について問う。

仮設住宅建設関連項目の内容を要約すると、自らの資力で住宅を確保できない被災者には、応急修理や住宅の提供等の措置を講じる。

建設予定場所は、町または県の公有地で、飲料水が得やすく保健衛生上適切な場所とし、交通手段にも配慮すると定めてある。

本町での被災者対策として、仮設住宅建設候補地は明確に確保してあるか。また、建設戸数は何戸と定めてあるか問う。

① 具体的な場所と数字を、地域防災計画に記載しておくべきでは。

② 大きく広い場所に防災公園を提案する。平時はくつろげる広場、一旦緩急あれ



美郷町の防災公園

ば避難場所とし、必要となれば仮設住宅の建設用地として活用すれば、町長の公約にもつながるのでは。

③ 2030年の国民スポーツ大会として、本町もソフトボール競技会場となつていくが、本格的なソフトボール施設として山村広場を修復、修繕、改修し併用することを提案する。



奥出雲スポーツ公園

**A 既存の公共用地を想定** 明確に記載していないが、公共用地である赤名山村広場、頓原町民野球場、旧小田小学校校庭を想定している。

建設戸数も定めていないが、家族用であれば1戸40㎡が必要となり、先の3ヶ所で300戸程度が建設可能だ。

① 昨年度、大規模改定を行ったが、本年度も国、県の修正がある。その修正に合わせて建設候補地を記載する。

② 造成となれば、多額の造成費用や維持管理の問題がある。他自治体でも仮設住宅建設用地については野球場やグラウンド、旧学校の校庭跡地などであると認識している。今後の公園整備の参考にする。

③ 会場は具体的には決まっていないうが、山村広場も既存の施設としては候補地だ。別途造成は難しく、既存の施設の改修となる。

防災公園のことも念頭に整備を行う。

町長塚原隆昭

## 先進技術導入で 町の課題解決を

平石 玲児 議員



### Q スマート農業推進 支援を

少子高齢化は今後さらに進行し、本町のすべての業種において深刻な問題になる。農業においても、個人、法人を問わず後継者問題が深刻化することが予測できる。

その対策として、国、県、本町においてもスマート農業の推進が図られている。これらのシステムや機械には様々な機能が付加されているため価格が高く、補助残部分の負担が大きい。支援する考えはないか。



除草剤散布するドローン

### A 補助事業の上乗せ 支援を検討

町長塚原隆昭

スマート農業技術を活用した農機具等を、導入する農家や農業法人が増えているが、まだ発展途上の段階でもある。

まずは、本町でスマート農業の導入を希望する声などの程度あるのか。また、その技術が農業経営の改善に有効かなどをしつかり見極め、真に需要と効果のある技術に絞り込み支援する方向で検討する。

国は2分の1、県単事業では3分の1の補助事業が用意されており、そこへの上乗せ支援で検討を進めたい。

**Q 5Gの整備を** 携帯電話は、第5世代移動通信システム(5G)の時代になる。5Gの普及により、あらゆる分野で問題になっている人手不足を解消するため使われると思う。

人口減少、過疎化が進む地方に5Gを整備することで、過疎化の進行が抑えられると思う。国に対し財政支援等の要請が必要と考えるが、町長の考えはどうか。



ラジコン草刈り機

### A 国の構想に沿って 検討

町長塚原隆昭

5Gの整備は、個々の自治体の努力では難しい現実がある。県を通じ総務省や関係部署に働きかけていく。

本町としては、国が掲げる「デジタル田園都市国家構想」に沿って、三点を検討したい。

一、農業や介護福祉等、様々な分野でのICT化

二、行政手続きのオンライン化

三、AI・RPA等行政事務の効率化

5G「高速大容量」「高信頼・低遅延」「多数同時接続」を提供する移動通信システム

AI…人工知能。コンピュータがデータを分析し、推論や判断、課題定義や解決、学習を行う。人間の知的能力を模倣する技術を意味する。

RPA…ロボットが作業することにより業務の効率化を実現し、最適な人の割り当てを支援。